



むさしのスマイルの これまでとこれから

むさしのスマイル
代表 岡田めぐみ

設立の経緯

●「子ども達の安全を守りたい」

3歳と1歳の子どもを連れて、夫のいる東京へ自主避難。自分は妊娠3ヶ月。

●外国人の夫が母国に一時帰国

新たな住まいを探す必要に迫られるが、自主避難者への情報がなくインターネットで必死に探し、現在の都営団地に入居する。

●普通の生活ができない

慣れない土地で生活環境の違いに戸惑い、身重の身体で2人の子どもを育てる困難に直面する。

支援者との出会い

●東京都助産師会の妊婦支援プロジェクト

インターネットで知った妊婦支援プロジェクト、すぐに連絡をとり、ボランティアとして近くに住む松尾さんと伊東さんと出会う

●「何かできることがあれば、協力したい」

被災地のママ達が心配で、自宅の空き部屋をホームステイ先にと申し出ていた松尾さん。看護師だった伊東さんも何か役に立てるのではとボランティアに。

子育てママの関心事はみんな同じ。子どもの健康や安全について一緒に考えていたら自然と今の活動へとつながった。



よらんしょサロンスタート

●みんながつながれる場を

避難者はさまざまな悩みを抱えている。当事者同士でなければわかりあえないことも多い。

●支援したい気持ちのある人はたくさんいる

積極的に避難者の集いに参加して気づいたこと。つながれる場所がないということ。

●思っていることを話せる場に

避難者が思っていることを話せて、支援したい気持ちのある人とつながれたり、必要な情報が手に入る場に。



伝えたいこと

●情報は一か所に。

「ここを見れば必要な情報が得られる」というところを定めてほしい。そのほうがずっと楽に調べられる。

●チラシは「内容」と「対象」分かるように。

イベント等の案内は、「活動内容」と「対象」がきちんと伝わるように広報してほしい。自分が参加して良いのか不安になってしまう。

【知らなくて参加しない】のと【知っていて参加しない】では大違い。

●希望を伝えることは難しい。でも、選ぶことはできる。

「私たちこういう支援ができるよ！」という発信をしてほしい。してほしいことを聞かれるよりも、選択肢をもらって選びたい。

これからは...

● 社協など中間支援の立場にある人に期待。

サロン同士をつなぐ役割の人、情報をそれぞれの集まりに届ける人が必要。他の地域でどんな取り組みがあるのか、どんな人がいるのか知りたい。

● 地域の人と一緒に活動したい。

避難者であっても、他の人に何かしてあげたいという気持ちはある。誰かの役に立つことができれば嬉しい。いま住んでいる地域と関わっていきたい。

● 大きな集まりも、小さな集まりも、どちらも必要。

気楽に参加できる大きなイベントも、地域でじっくり話せる小さなサロンもほしい。(同郷の人と)知り合いたいという気持ちは皆大きい。これらを自分たち主体で開催できるようになると良い。

● みんなの声を行政に届けたい。

避難者同士、話しているなかで新たな発見や要望が出てきたとき、そういう声を行政に届ける避難者と地域や行政を結ぶ架け橋になりたい。